

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

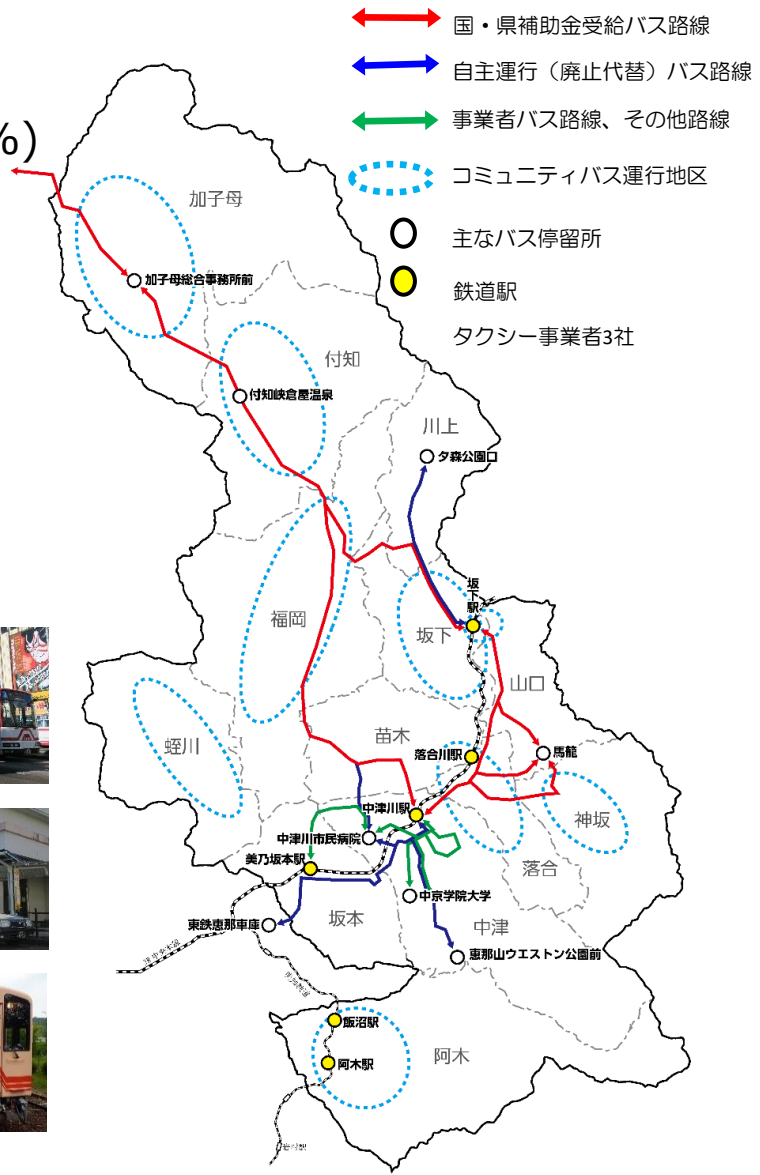
令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行  
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和5年1月18日 令和4年度評価結果送付

# 1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

## 中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ① 利用者の減少で地域公共交通網の維持が困難に
  - ✓ 人口減少・高齢化（国調△2,313人、高齢化率32.9%）
  - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
  - ✓ コロナ感染症拡大により移動需要が減少
- ② 誰もがわかりやすい公共交通となっていない
  - ✓ バスを利用する外国人旅行者に対する案内不足
  - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③ 運転手不足で地域公共交通網の維持が困難に
  - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ



## 中津川市地域公共交通計画（2022.1改定）

- 基本方針
  - ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に
- 目標
  - ✓ 住み続けられる街に  
～定住を支える公共交通
  - ✓ 来てよかった、また来たい街に  
～観光と利用促進
  - ✓ 運転手不足解消に向けて  
～誰もが活躍する街に
- 期間
  - ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



**目指す姿とは** 利用者確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…  
**いつまでも定住できる街に！ 住みたくなる街に！**

## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

## ■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

## ■ 2021-2022年度に実施した主な取り組み

## ■ 苗木城フリー乗車券の発行（R4.1～発行開始）

## ②利用促進

路線バスを利用した苗木城観光を！

- 観光シーズンの土日祝運行
- 中津川駅前⇔苗木バス停間で利用可(観光シーズン外)
- 中津川駅前⇔苗木城バス停(季節運行)



## 実績

R4.春運行 138人  
R4.9～県観光部局によるプレスリリース  
R4.秋運行 781人

## 考察

利用者が増加し、地域観光資源との連携が期待できる路線となった

## ★コミュニティバスの路線再編(R4.10～)

## ①定住を支える

目的を明確にした路線に再編

- 福岡地区 アンケート結果により、温泉施設に特化した路線を、**地域で通院・買い物**ができる区域運行に再編  
住民によるバス検討委員会を開催（5回）

## 実績

運行開始

## 考察

地域による協議を経て、地域住民の利便性向上につながる路線となった

## ■ 2020-2021年度の取り組み… 蛭川地区のバス再編

高校生がバスで通える街に！

東鉄バス廃止路線とコミバスを合わせた再編を実施し、学生通学便の新設。堅調に利用され、学生のバス通学が可能となった。利用者数1,329人（R3.10～R4.9）

### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

#### ■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画や地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
  - ① **いつまでも中津川市に住み続けられる**（高校生が自宅から通うことができる）
  - ② **住民や来訪者による公共交通利用者を確保**することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、地域公共交通計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 評価指標の数値は、社会情勢等を踏まえ2023年度に見直しを行う。

#### ■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2021年度	25.3%	6.7回/人
	2022年度	27.8%【達成】	7.5回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 沿線地区内の学生数は減少傾向にあるが、<b>福岡・苗木地区の学生によるバス通学が増加</b>している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>新型コロナウイルスの影響後、回復傾向</b>だが、以前の水準に至っていない。</li> <li>• 付知峡倉屋温泉を利用できる<b>セット券購入者増加</b>により、付知峡線の利用者が増加している。</li> </ul>

## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

## ■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 網形成計画と整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	(上段) 利用人数、(下段) 達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2021(実績)	2022(実績)	
民間路線バス (補助系統)	253,025 -	253,025 100%	262,633 103.8%	○ 外国人労働者の定期的な通勤利用がある。 ○ 市による高校生バス通学定期購入補助の改正や周知により、 <b>福岡・苗木地区の学生利用が増加</b> した。 ○ 付知峡倉屋温泉を利用できる <b>セット券購入者の増加</b> により、付知峡線の利用者が増加している。
民間路線バス (非補助系統)	154,995 -	154,995 100%	176,186 113.7%	× <b>新型コロナウイルス</b> の影響後、回復傾向であるものの、以前の水準に至っていない。 × 中京学院大学行きのバスで、増車対応する機会が減っている。
自主運行バス (廃止代替バス)	49,621 -	49,621 100%	57,670 116.2%	○ 坂本三坂線（東鉄バス中津川線廃止代替路線）が運行開始から1年以上が経過し、 <b>堅調に推移</b> している。 ○ 地域との協議の上、小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定したことにより <b>学生利用が増加</b> し、 <b>堅調に推移</b> している。（阿木・蛭川地区）
自主運行バス (コミバス)	19,623 -	19,623 100%	23,306 118.8%	× 頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ <b>利用者の高齢化</b> 。認知症、施設へ入所、死亡など） × <b>新型コロナウイルス</b> の影響により、利用者が減少後、利用者が戻っていない。
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	35,352 -	35,352 100%	46,903 132.7%	○ <b>新型コロナウイルス</b> の影響により減少した学生による定期利用が、戻りつつある。 × 鉄道輸送人員は、コロナ禍前の2019年度と比較して <b>38.3%減少</b> した。
合計	512,616	512,616	566,698	【参考】 住民基本台帳人口（9月末） 2021（基準） 76,553人 2021（実績） 76,553人 2022（実績） 75,663人（▲1.2%）

## 4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

来訪者による公共交通利用を促進し、地域公共交通の維持に繋がります

### 地域資源を活用、移動と目的をセットに

#### 課題

- ・ 路線バスに乗り中津川駅前から馬籠宿、その後妻籠宿へ行く欧米からの個人旅行者が多数でしたが、コロナ禍により減少しました。
- ・ インバウンドだけでなく、国内観光客にも路線バスを利用してもらうことが必要です。



フリー乗車券硬券

#### 教訓

- ・ 魅力ある路線づくりには、**この場でしか体験できない経験や景色**を組み合わせることが重要です。

#### 対応

- ・ 苗木城線、馬籠線、付知峡線でフリー乗車券を販売しました。  
苗木城線フリー乗車券利用状況（2022年春）  
往復利用57名 片道利用24名 計138名



令和元年実施のグリーンスローモビリティ実証運行

順位	項目	満足度
1	ガイドの案内(N=36)	4.80
2	落合の石畳(N=33)	4.75
3	車窓の景色(N=36)	4.71
4	落合宿本陣(N=36)	4.66
5	低速電動バス(N=36)	4.60
6	馬籠宿(N=30)	4.59

実証運行アンケート結果

#### 今後

- ・ 既存路線バスと地域観光資源を連携させた付加価値の高い観光商品を開発し、移動と目的をセットにした「**稼げる路線**」を創ります。
- ・ 市へ訪れる観光客に企画切符を利用してもらい、**地域公共交通の維持**に繋がります。

通行止め期間中の住民の公共交通を確保します

### 神坂地区コミュニティバス再編を地域と検討

#### 課題

- ・ 2023年10月頃から神坂スマートIC工事に伴う通行止により、神坂地区から**市街地へ向かう公共交通がなくなり**、買い物や通院ができなくなります。

#### 今後

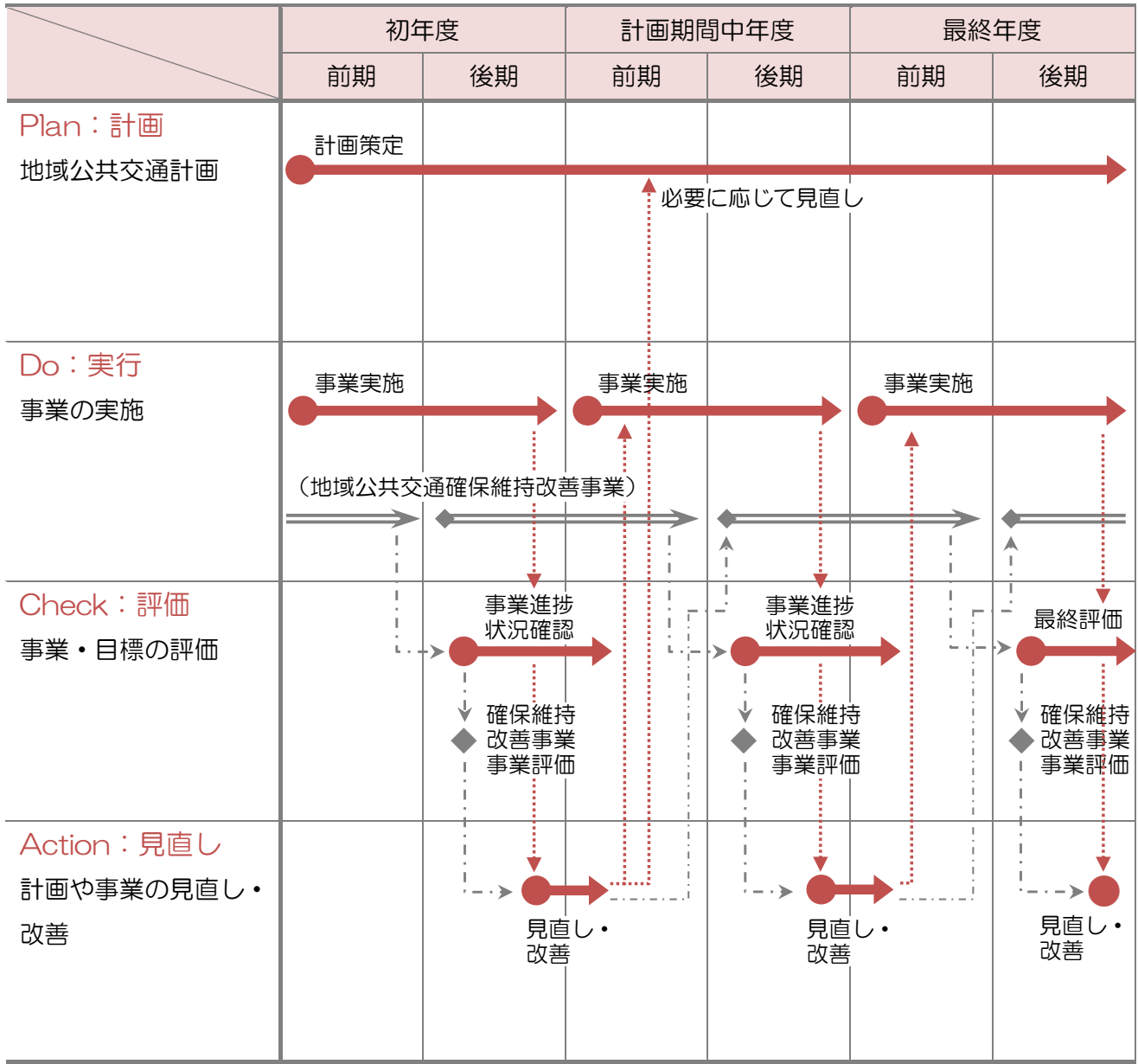
- ・ 2023年10月に市コミュニティバスを延伸し、神坂地区と落合地区を繋ぐ路線に**再編**します。
- ・ 地元区長会で現状認識共有と課題の洗い出しを行い、意見収集を実施中です。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止代替手段として運行を開始した坂本三坂線について、市民病院の利用を取り込むなどの見直しを行った結果、以前の運行路線よりも利用者が増加していることを評価します。</li> <li>・ 福岡地区の路線の見直しについて、地区バス検討委員会を開催し、課題の把握や利用状況調査を行ったことを確認しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 福岡地区コミュニティバス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線を見直し、令和4年10月から新しい路線で運行を開始しました。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 福岡地区コミュニティバス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順調に運行を開始し、今後も運行状況を注視します。</li> <li>・ 新規の利用者が増え始めています。</li> <li>・ 地域住民への周知と更なる意見収集のため、コミュニティバスのモニター乗車の実施を検討しています。</li> </ul> </li> </ul>
前々回	<p>民間路線バスの一部路線廃止の申し出を受け、速やかに代替手段の方策を関係者で協議、より良い公共交通を作る契機と捉えて、これまでの関係者間で構築された緊密なつながりにより、令和2年4月からの再編計画を策定したことを評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東鉄バス中津川線廃止代替路線（坂本三坂線） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年4月から運行開始しました。</li> </ul> </li> <li>■ 東鉄バス蛭川線廃止代替路線（蛭川地区コミバス） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年4月から運行開始しました。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 坂本三坂線 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順調に運行・利用されており、今後も運行状況を注視します。</li> </ul> </li> <li>■ 蛭川地区コミバス <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生の帰り便の運行時間を利用者と運行事業者の意見を聞き変更予定です。</li> </ul> </li> </ul>

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

● 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



- 令和4年度
- 第1回 令和4年6月28日
  - 第2回 令和4年9月20日  
(書面開催)
  - 第3回 令和4年12月12日  
(書面開催)
  - 第4回 令和5年1月11日



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月11日

協議会名: 中津川市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 矢平線	【福岡地区】 ・地区バス検討委員会を開催。 ・現状課題の共有と住民向けアンケートを実施後、令和4年10月から区域運行で運行開始。  【坂下地区】 ・地区バス検討委員会を開催。 ・利用者の要望の多かった道の駅、商店、病院を経由する路線に変更することを事業者や地域と協議後、令和4年10月から新しい路線で運行開始。  【苗木城線フリー乗車券発行】 ・令和4年1月から発行開始。	A 運行は計画どおり適切に実施された。  【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/790人以上 実績/50人(達成率6.3%) 【考察・利用状況】 ・昨年度ほとんどサロンが休みとなつて以降、利用が少なくなつたまま戻っていない。午前便で利用した方が午後便は利用しておらず利用者数が増えていない。	【課題】 ・福岡地区の路線開設当初の運行目的は、各地域からほととサロン(健康増進施設・お風呂)への送迎が主目的だったが、コロナウイルス感染症防止対策による施設休業・縮小営業のため、バス利用者が激減した。 ・午前便利用者が、ほととサロンや病院受診後、午後便のバス待ち時間まで、待つことが出来ず、その結果午後便が利用されていない。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 若山線	【福岡地区】 若山線	A 運行は計画どおり適切に実施された。  【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/263人以上 実績/18人(達成率6.8%) 【考察・利用状況】 ・月に1~2人程度の利用にとどまっている。また、日常的な利用者がいないため、利用者が少ない。	【対応】 ・住民アンケートの結果により、ほととサロン利用に特化した路線を、地域で通院・買い物ができる区域運行に再編。再編に至るまでに、住民によるバス検討委員会を5回開催。 ・R4.10より順調に運行を開始し、今後も運行状況を注視。 ・新規の利用者が増え始めている。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 新田線	【福岡地区】 新田線	A 運行は計画どおり適切に実施された。  【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/905人以上 実績/262人(達成率28.9%) 【考察・利用状況】 ・午前便で通院およびほととサロン利用者による乗車があるものの、帰宅の際に午後便を利用するのはほととサロン利用者のみであり、午後便の利用が減少している。	【今後】 ・地域住民への周知と意見収集のため、コミュニティバスのモニター乗車の実施を予定。

北恵那交通株式会社	【福岡地区】 本郷線	【地域公共交通計画との関連】 ・地域公共交通計画に基づいて事業を実施した。特に生活交通確保維持改善計画に関係する主な事業は次のとおり。 ①公共交通の運行を継続します(計画P.15参照)	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/767人以上 実績/38人(達成率5.0%) 【考察・利用状況】 ・東組で1名利用があり、通院後、福岡総合事務所から乗車している。また、日常的な利用者がいないため、利用者が少ない。	
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 上之平・下組線	→補助対象系統を含め、市内9地区でコミュニティバスを運行(補助対象系統は4地区14系統) ③公共交通の利用促進に向けた取り組み(計画 P.22参照) →既存路線バスを活用した観光商品開発を行い、デジタルチケット等の導入に向けた検討を行う。 →中津川駅前と苗木城バス停のフリー乗車券の発売。地域資源との連携につながる路線となった。	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 206回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/544人以上 実績/34人(達成率6.3%) 【考察・利用状況】 ・通院利用者が1名あるが帰宅時はバスを利用していない。また、日常的な利用者がいないため、利用者が少ない。	
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線		A 運行はおおむね計画どおり適切に実施された。(雪による運休あり) 【計画運行回数】 610.5回 【実績運行回数】 609回 【運行割合】 99%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は年間利用者を推計した分以上とする。 目標/8,170人以上 実績/15,173人(達成率185.7%) 【考察・利用状況】 ・順調に運行・利用されている。 ・沿線企業の通勤での利用も多く、今後も運行状況を継続的に把握していく。	・東鉄バス中津川線(中津川駅前～美乃坂本駅前～恵那駅前)の廃止によりR3.4から運行を開始した。 ・順調に運行・利用されており、運行状況の継続的な把握により、更なるサービス向上に努める。 ◆R3.10～R4.9の坂本三坂線運行実績 ・1便当たり輸送人員6.9人/回
北恵那交通株式会社	【坂本・中津地区】 坂本三坂線(市民病院経由)		A 運行はおおむね計画どおり適切に実施された。(雪による運休あり) 【計画運行回数】 101回 【実績運行回数】 100回 【運行割合】 99%	A 【定量的達成状況】 ・利用者数は年間利用者を推計した分以上とする。 目標/1,296人以上 実績/3,115人(達成率240.4%) 【考察・利用状況】 ・順調に運行・利用されている。 ・病院への利用がやや少ない。	
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線		A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/724人以上 実績/1,054人(達成率145.6%) 【考察・利用状況】 ・昨年度から若干利用人数が増加している。下小野沢から乗車する中学生が利用している他、坂下駅前で降車する定期利用者がいる。	・早朝の便であるため、通勤の利用者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)

A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/1740人以上 実績/1,404人(達成率80.7%) 【考察・利用状況】 ・例年通り下校の児童・生徒の利用が多く、一般に利用される方は少ない。	・主に帰宅する小中学生のスクールバスとして利用されている。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/728人以上 実績/2,105人(達成率289.1%) 【考察・利用状況】 ・昨年度に比べ利用人数は増加している。 ・例年通り、下校の児童・生徒様の利用が多く、特に週初め月曜日は一斉下校のため多い。 ・一般に利用される方は少ない。	
A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/312人以上 実績/551人(達成率176.6%) 【考察・利用状況】 ・駅前または診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。	・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。 ・目標値を大きく上回っている系統であり、ルート変更後も引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 243回 【実績運行回数】 243回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/2112人以上 実績/1,656人(達成率78.4%) 【考察・利用状況】 ・昨年度と比較し増加傾向にある。 ・児童生徒は下握バス停より乗車し、朝の登校の際に利用されている。	・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。
A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 121.5回 【実績運行回数】 121.5回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/300人以上 実績/224人(達成率74.7%) 【考察・利用状況】 ・駅前または診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。	・比較の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	A 運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 486回 【実績運行回数】 486回 【運行割合】 100%	B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/908人以上 実績/360人(達成率39.6%) 【考察・利用状況】 ・昨年度から利用者数が若干減少している。定期利用が少なく、利用者数も増えていない。	・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要があり、今後も推移を見守る。 ・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。
----------	---------------------	--	---	---

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月11日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。</p>